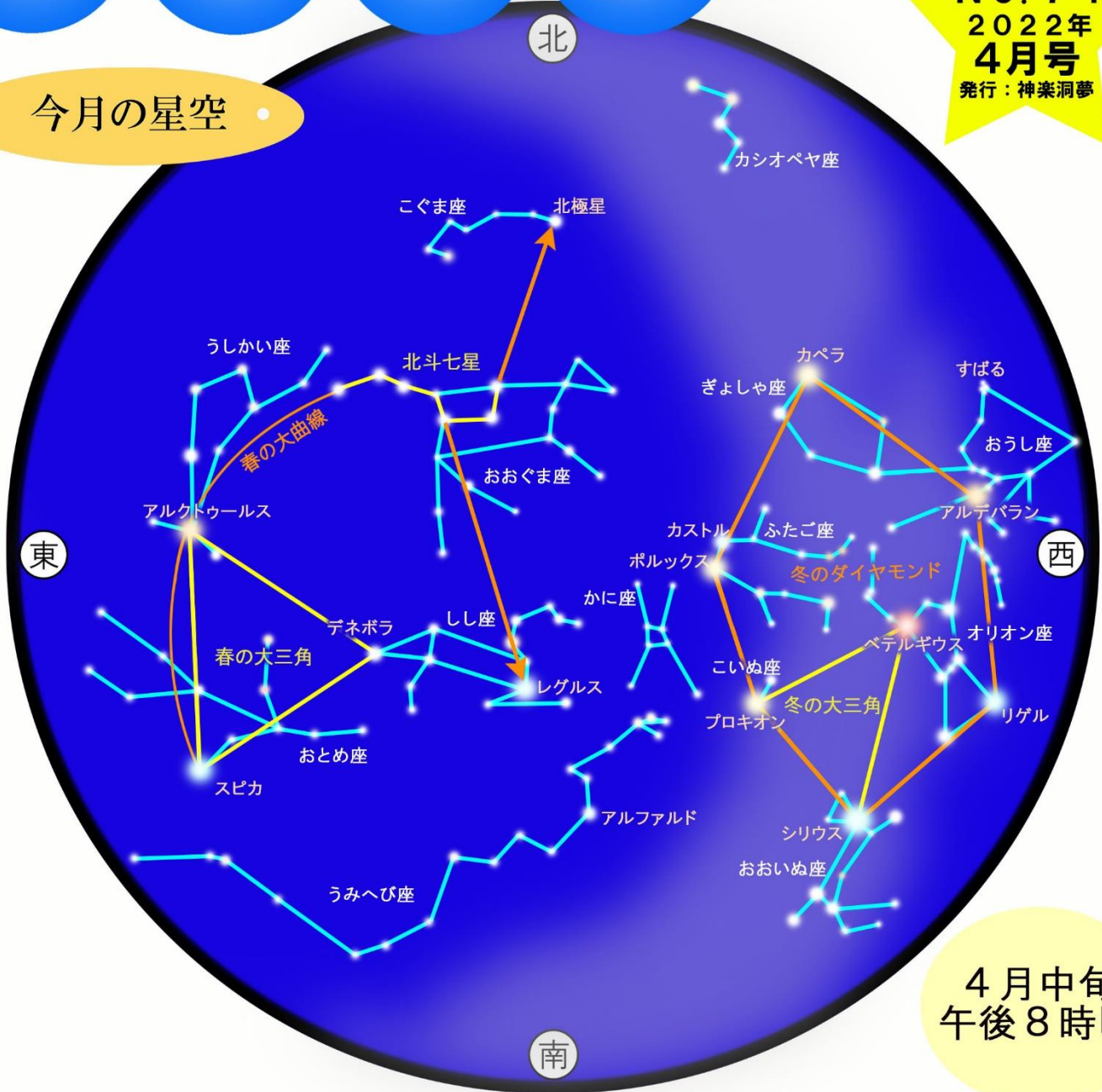


神楽通信

No. 74
2022年
4月号
発行：神楽洞夢

今月の星空



4月中旬
午後8時頃

ひしゃくの形の北斗七星は、星探しに便利な目印です。北の空に輝く北極星や、1等星のレグルスとアルクトゥールス、スピカのところまで案内してくれます。まずは北斗七星を見つけ、春の星めぐりを楽しんでください。

おおぐま座・こぐま座のギリシャ神話

おおぐま座は尻尾に北斗七星をもつ星座で、その近くには北斗七星に似た形をしたこぐま座もあります。今回はおおぐま座とこぐま座のギリシャ神話をご紹介します。

ギリシャ神話によると、おおぐま座は月の女神アルテミスに仕えていた妖精カリストが、こぐま座はその息子アルカスが熊の姿になったものだと伝えられています。

カリストは大神ゼウスと恋に落ち、子を産んだことでゼウスの妻である女神ヘラの怒りを買って、呪いで熊の姿に変えられてしまいました。カリストは森の中で暮らすようになりましたが、息子のアルカスは人間として成長し、立派な狩人となりました。

ある日、アルカスは狩りに出かけ、森の中で大きな熊を見つけます。しかしその熊は、生き別れた母カリストが変身したものでした。母と知らずに熊を仕留めようとするアルカスを見た大神ゼウスは、彼を子熊の姿に変え、二人をそのまま天に上げて星座にしました。

こぐま座の形が北斗七星に似ているのは、二人が親子である証なのかもしれません。親子そろって北の空に並ぶ熊の星座を夜空に探してみてください。(原田)

